

第6回いわき市下水道事業等経営審議会資料

【令和4年度決算状況と経費回収率の考え方について】

令和5年6月

いわき市 生活環境部 生活排水対策室 経営企画課



—くらしと未来を ささえつづける—



目次

●目次

- 1 はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 頁
- 2 令和4年度決算状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 頁
- 3 経費回収率の考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14 頁
- 4 今後の予定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18 頁

1

はじめに

●第6回下水道事業等経営審議会の議題

○3月16日に開催した第5回審議会では、

①経営戦略の進捗状況と評価

②投資・財政計画

について説明しました。

○今回の第6回審議会では、

①令和4年度決算状況

②経費回収率の考え方

について説明します。

※投資・財政計画（案）を提示する予定でしたが、現在精査中です。

【審議会スケジュール（予定）】

回数	開催月日	主な審議等
第5回	R5.3.16	経営戦略の進捗状況と評価 投資・財政計画
第6回	R5.6.29	令和4年度決算状況 経費回収率の考え方
第7回		投資・財政計画（案）
〃	（複数回）	
最終回	R5.10予定	答申

2

令和4年度決算状況

●企業会計の仕組み

- 本市の下水道事業は、平成28年4月より、**透明性の確保と経営基盤の強化**を図る観点から、地方公営企業法の財務規定を適用し、**企業会計方式**による会計処理を行っています。
- 企業会計方式は、地方公営企業法によって定められた公営企業会計の原則に基づき、下水道施設の維持管理費や減価償却費などの「**①収益的収支**」と、下水道施設の整備費用などの「**②資本的収支**」の2つに区分されます。

企業会計方式

① 収益的収支

下水道施設の維持管理を行うための費用とその収入です。皆様からいただく下水道使用料を主な財源としています。

② 資本的収支

下水道施設を整備するための費用と、その収入です。収入は、国などからの補助金や借入金等ですが、不足する分は自己資金でまかいます。

3

令和4年度決算状況

●企業会計の仕組み（収益的収支）

○企業会計は、「**収益的収支**」と「**資本的収支**」の2本建てで構成されています。
ここでは、収益的収支の主な項目を説明します。

収入	①下水道使用料	下水道に接続しているご家庭から上水道料金と一緒にいただいているものです。基本的に施設の維持管理費に充てています。
	②他会計負担金	下水道は、生活排水である汚水と雨水の2種類を処理しています。雨水の処理費用と汚水の処理費用の一部は市の一般会計が負担しています。
	③長期前受金戻入	長期前受金戻入は、「資産」取得時に財源とした国県補助金等を、減価償却費に対応して収益化したものです。
支出	④減価償却費	減価償却費は、建物や車両などの「資産」の価値が経年により減少した分に相当する金額を費用化したものです。
	⑤資産減耗費	「資産」が使用できなくなった場合、減価償却費として費用化されていない金額を費用化したものです。
	⑥維持管理費	汚水を処理する施設（浄化センターやポンプ場）の運転や修繕、下水道管の清掃や修繕のほか、下水道への接続促進や使用料の徴収等に係る経費です。
	⑦企業債償還支払利息	施設を建設するときに国や銀行などから借りたお金の利息です。

4

令和4年度決算状況

●企業会計の仕組み（資本的収支）

○次に、資本的収支の主な項目を説明します。

収入	①企業債	下水道は、何十年にもわたって使用していくため、今の世代の人だけが整備費用を負担することは負担が大きく、世代間の不公平につながります。そこで、将来の世代にも費用の一部を負担していただくという考えのもと、費用を借入れて、整備を行っています。
	②他会計出資金	下水道施設の整備費用の一部について、一般会計からの出資を受けています。
	③国・県補助金	国・県補助金は、下水道施設を整備するための費用の一部として、国・県から交付されるお金です。
支出	④企業債償還金	これまでに国や銀行などから借りたお金の返済に係る経費です。
	⑤建設改良費	建設改良費は、浄化センターやポンプ場の建設や改築、下水道管を敷設していくための経費です。

※資本的収支で、収入が支出に対して不足する額は、
収益的収支の「減価償却費等の非現金支出」や「純利益」などの自己資金で補っています。

5

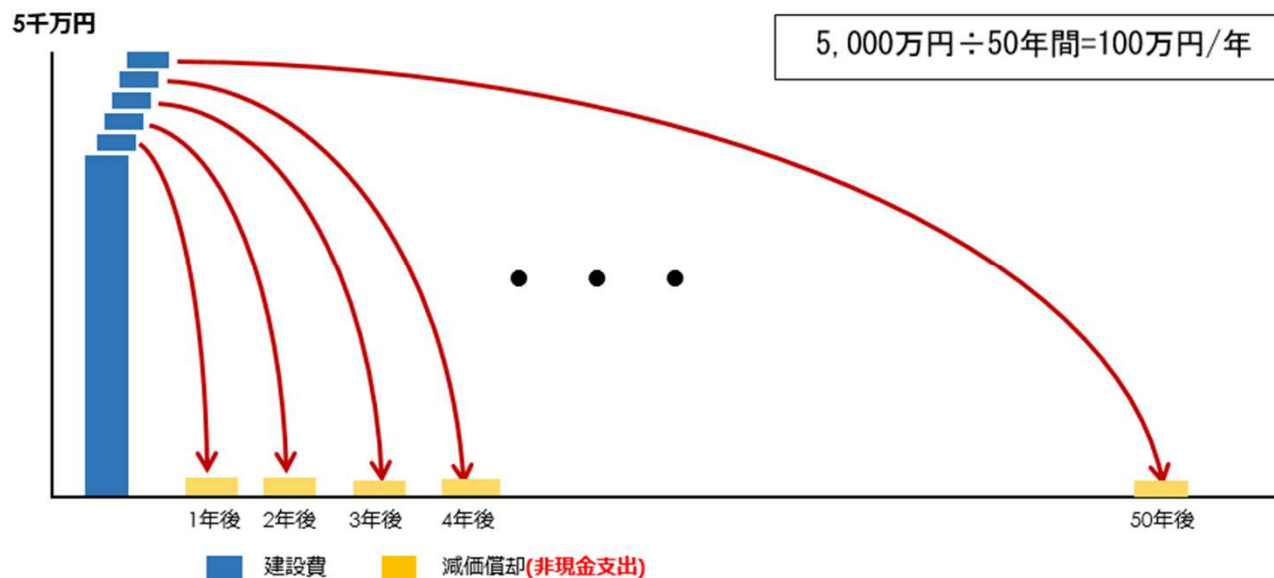
令和4年度決算状況

●企業会計の仕組み（減価償却費のイメージ）

～50年間使える下水道管を5,000万円で建設したときの減価償却のイメージです～

- 減価償却費とは、長期間にわたって使用される建物や設備等の固定資産の価額を、耐用年数で期間配分した費用のことをいいます。
- 右図で言うと、建設した年に5,000万円を支払い済みなので、1年後以降は100万円が出ていきません。実際には、100万円が手元に残ります。

【例】50年間使える下水道管を5千万円で建設した時の減価償却のイメージ



- 減価償却費は、建設した年に支払った「建設費」のうちの当該年度分を計上しているだけであり、実際には現金の支払いがありません。（非現金支出分）
- このお金は、「資本的収入」－「資本的支出」の不足額に使うことができます。

6

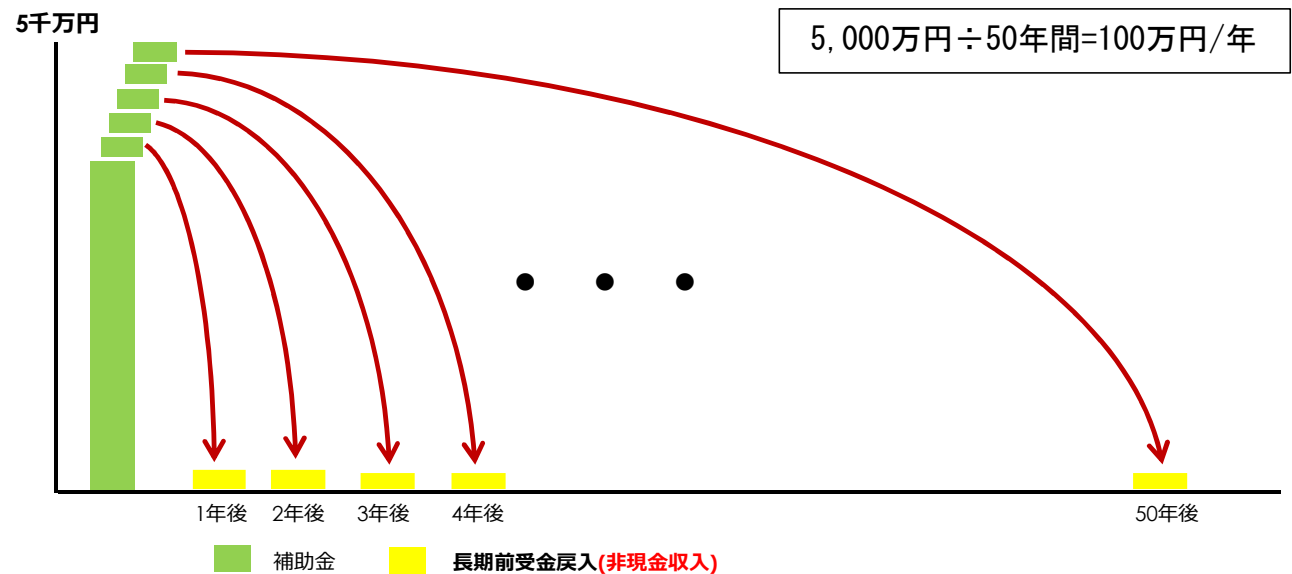
令和4年度決算状況

●企業会計の仕組み（長期前受金戻入のイメージ）

～50年間使える下水道管を5,000万円で建設したときの長期前受金戻入のイメージです～

【例】50年間使える下水道管を5千万円で建設した時の長期前受金戻入のイメージ

- 長期前受金戻入とは、減価償却費が固定資産の価額を耐用年数にわたって期間配分する一方で、その財源（補助金等）を収益として期間分配することをいいます。
- 右図で言うと、建設した年に5,000万円を補助金として収入済みなので、実際には、1年後以降は100万円が入ってきません。



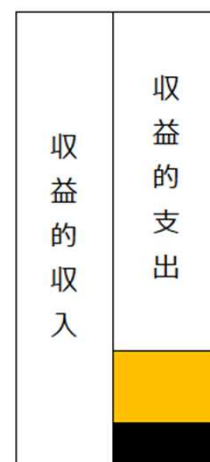
- 長期前受金戻入は、建設した年に収入した「補助金等」のうちの当該年度分を計上しているだけであり、実際には現金の収入がありません。（非現金収入分）

令和4年度決算状況

●企業会計の仕組み（補填財源のイメージ）

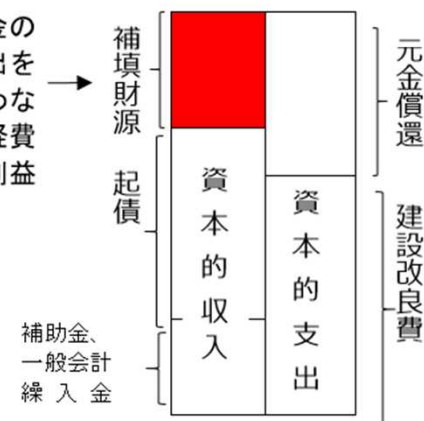
- 公営企業会計には、「補填財源」という概念があります。
- 取引があった場合、それは収益的収支あるいは資本的収支に区別されます。
- 資本的収支による収入は、下水道施設を整備する費用の財源になる企業債や国庫補助金などの資金が計上されますが、これらの収入が整備する費用や企業債償還金等の資本的支出より不足する場合には、「補填財源」を使用します。
- 「補填財源」には、経営活動の結果生じる利益や、費用中に計上されている減価償却費などの現金支出を伴わないものなどが充てられます。

[収益的収支]



現金の
支出を
伴わない
経費
と利益

[資本的収支]

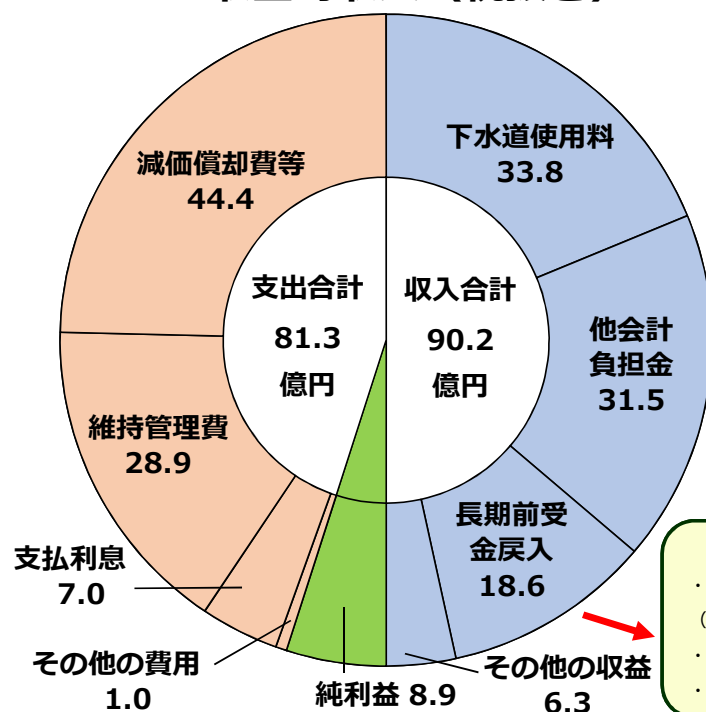


（出典）「やさしい公営企業会計」より抜粋

令和4年度決算状況

●下水道事業の決算

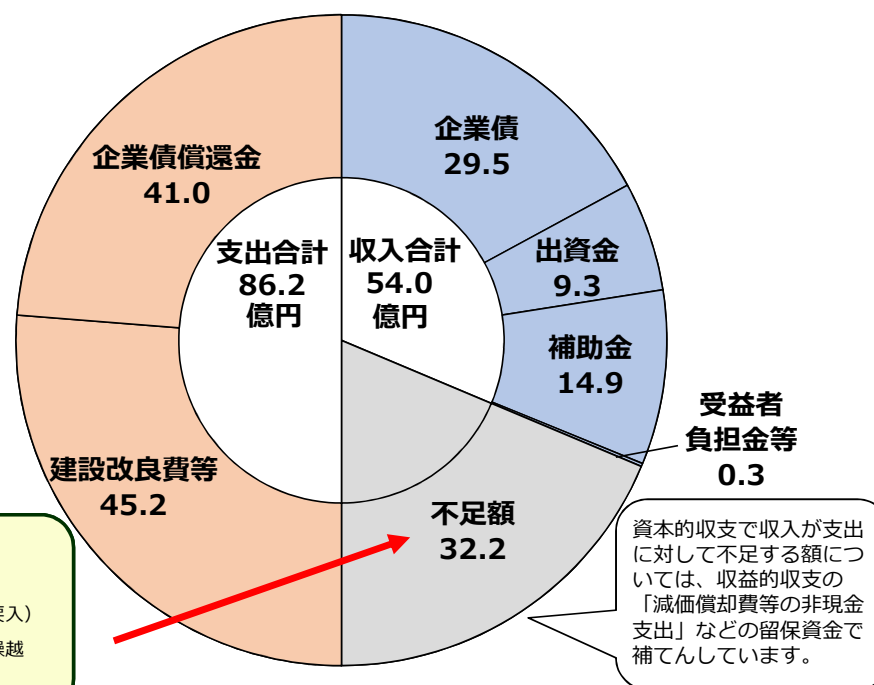
収益的収支（税抜き）



〈47.1億円〉

- ・非現金収支
(減価償却費等－長期前受金戻入)
- ・非現金収支の前年度からの繰越
- ・純利益等

資本的収支（税込み）（単位：億円）



資本的収支で収入が支出に対して不足する額については、収益的収支の「減価償却費等の非現金支出」などの留保資金で補てんしています。

○収益的収支の決算状況は、**8.9億円の黒字（純利益）**となっています。

○資本的収支の決算状況は、収入が支出に対して**32.2億円不足**しました。

別添資料1へ

令和4年度決算状況

●地域汚水処理事業の概要

○地域汚水処理施設とは、民間の開発事業者（住宅団地造成者）が大規模住宅団地を開発した際に整備した生活排水処理施設を、本市が帰属を受けて維持管理しているものです。

<各施設の整備状況について（令和4年度末）>

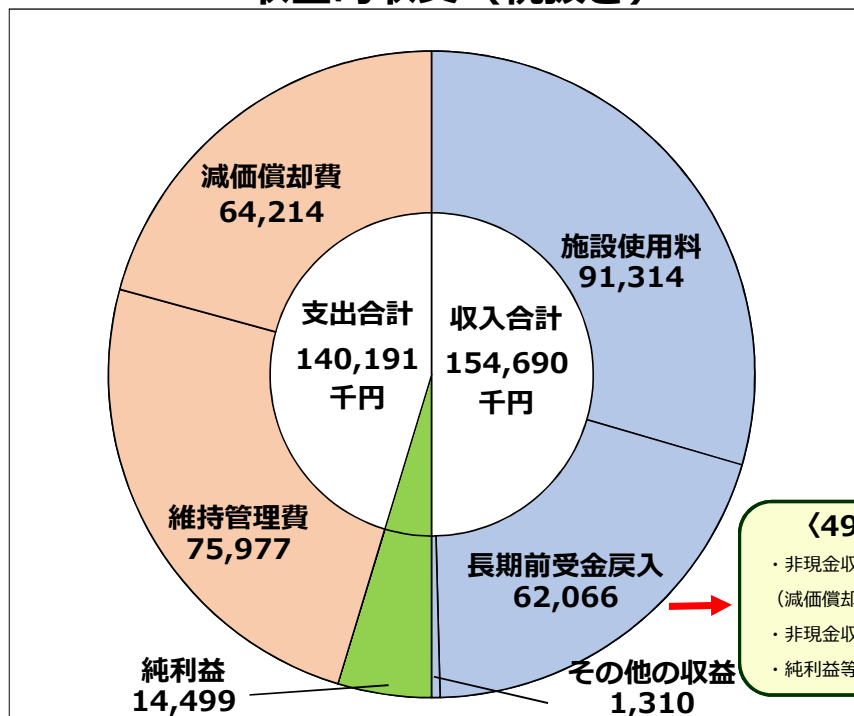
施設名		勿来白米	石 森	南 台	草木台	洋向台	合 計
所在地		勿来町白米林ノ中 30-345	石森一丁目1-15	南台二丁目48	草木台二丁目23- 13	洋向台五丁目27- 40	－
敷地面積		1,362 ㎡	1,524 ㎡	3,576 ㎡	6,841 ㎡	3,297 ㎡	－
供用年月		昭和53年12月	昭和61年3月	平成5年8月	平成2年10月	昭和58年9月	－
帰属年月		平成2年5月	平成9年4月	平成15年4月	平成15年4月	平成16年4月	－
実績	処理面積	21.0 ha	39.7 ha	140.4 ha	38.4 ha	47.6 ha	287.1ha
	処理人口	910 人	1,285 人	1,270 人	1,066 人	1,754 人	6,285人
	処理戸数	347 戸	559 戸	495 戸	634 戸	740 戸	2,775戸
放流先		蛭田川	夏井川	鮫川	藤原川	天神前川	－

<施設使用料> 月額（税込） ＝ 1戸あたり2,970円

令和4年度決算状況

●地域汚水処理事業の決算

収益的収支（税抜き）

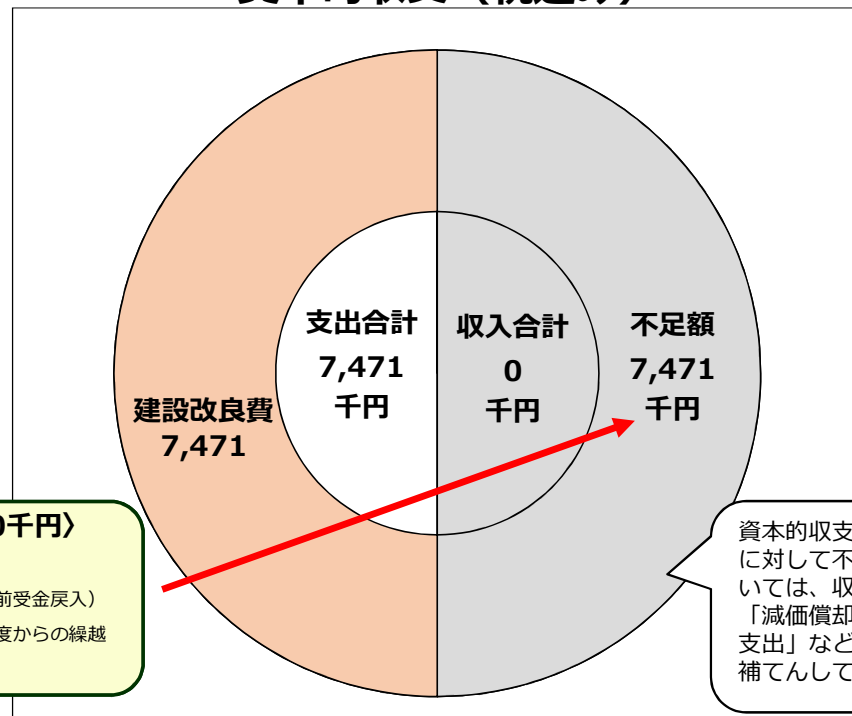


〈498,910千円〉

- ・非現金収支
(減価償却費－長期前受金戻入)
- ・非現金収支の前年度からの繰越
- ・純利益等

資本的収支（税込み）

(単位：千円)



資本的収支で収入が支出に対して不足する額については、収益的収支の「減価償却費等の非現金支出」などの留保資金で補てんしています。

○収益的収支の決算状況は、**14,499千円の黒字（純利益）**となっています。

○資本的収支の決算状況は、収入が支出に対して**7,471千円不足**しました。

令和4年度決算状況

●農業集落排水事業の概要

○農業集落排水処理施設とは、農村地域の生活環境の改善や農業用排水の水質汚濁の防止を図り、あわせて公共用水域の水質保全を目的にした公共下水道のような汚水の集合処理施設です。

<各地区の整備状況について（令和4年度末）>

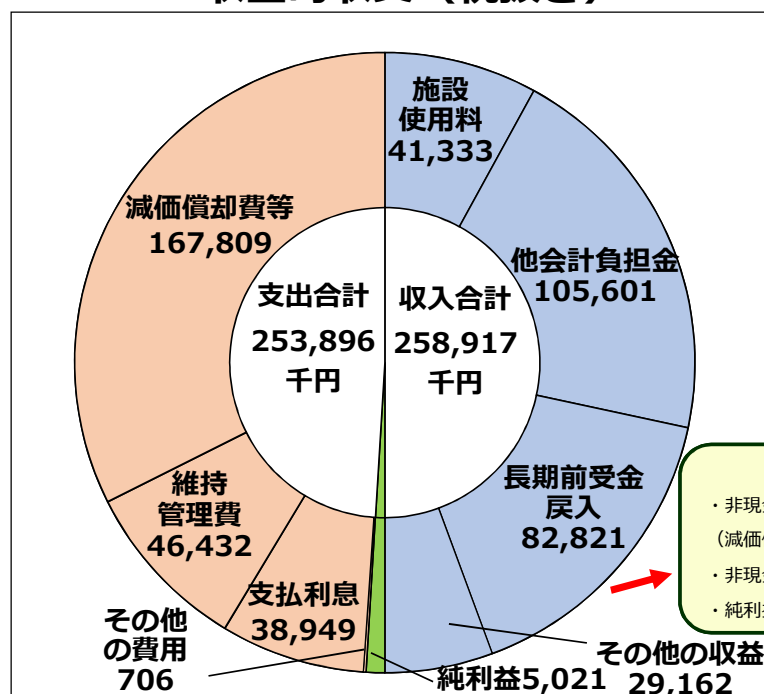
施設名		下小川	戸田	永井	三阪	渡辺	遠野	合計
所在地		小川町下小川字小沢口150	四倉町戸田字古川218	三和町下永井字峰岸13	三和町下三坂字下ノ里52-1	渡辺町松小屋字榎株121	遠野町滝字中川原2-2	－
敷地面積		1,907 m ²	1,482 m ²	1,381 m ²	1,657 m ²	1,422 m ²	2,342 m ²	－
供用年月		平成14年4月	平成15年4月	平成16年4月	平成19年4月	平成18年4月	平成27年4月	－
実績	処理面積	90 ha	31 ha	77 ha	185 ha	58 ha	229 ha	670ha
	処理人口	496人	228人	335人	478人	393人	1,867人	3,797人
	処理戸数	168戸	68戸	110戸	161戸	125戸	454戸	1,086戸
放流先		夏井川	仁井田川	小玉川	三坂川	釜戸川	深山口川	－

<施設使用料> 月額（税込）＝ 基本料金（2,170円）＋（人員×440円）

令和4年度決算状況

● 農業集落排水事業の決算

収益的収支（税抜き）

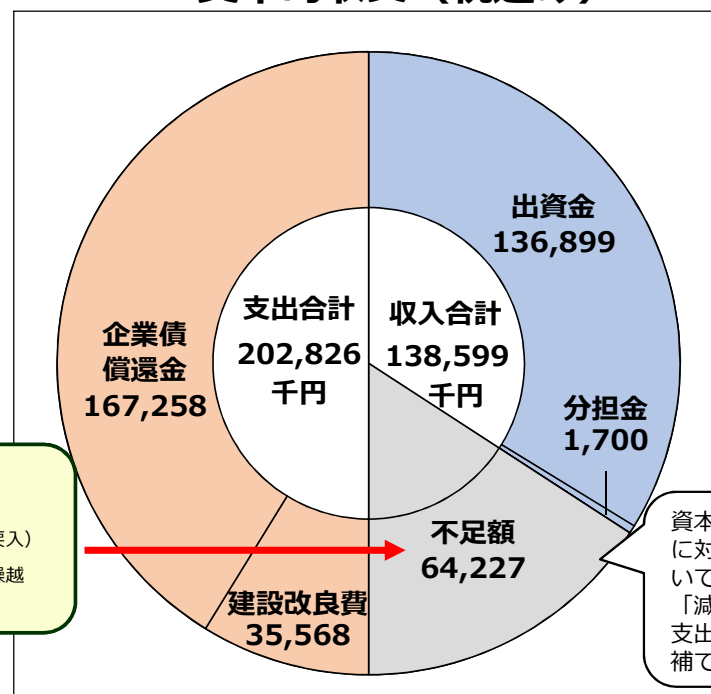


〈91,895千円〉

- ・ 非現金収支
(減価償却費等－長期前受金戻入)
- ・ 非現金収支の前年度からの繰越
- ・ 純利益等

資本的収支（税込み）

(単位：千円)



不足額
64,227

資本的収支で収入が支出に対して不足する額については、収益的収支の「減価償却費等の非現金支出」などの留保資金で補てんしています。

○収益的収支の決算状況は、**5,021千円の黒字（純利益）**となっています。

○資本的収支の決算状況は、収入が支出に対して**64,227千円不足**しました。

令和4年度決算状況

●下水道事業の決算状況（R元～R4）

- 本市では、第1次市下水道事業等経営審議会における審議やパブリックコメントの結果等を踏まえ、平成31年3月に下水道事業経営戦略を策定しました。
- 計画期間は、令和元年度からの10年間であることから、社会経営情勢等の変化にも適切に対応するため、計画期間を前期と後期の5年間に分け、見直しを行っておりますが、見直しにあたっては、これまでの計画と決算状況を把握する必要があります。
- そこで、今回は、下水道事業経営戦略の計画期間のうち、計画期間の前期にあたる決算状況を**別添資料**にて説明します。

<下水道事業経営戦略の計画期間>

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
いわき市下水道事業経営戦略（R1～R10）									
前期					後期				

別添資料2～5へ

14

経費回収率の考え方

●経費回収率の概要

- 経費回収率とは、使用料で回収すべき経費（污水に係る経費）を、どの程度使用料で賄えているのかを表した指標です。
- 下水道の経費は、**污水に係る経費のすべてを使用料によって賄うことが原則**となっています。
※污水に係る費用のうち分流式下水道に要する経費の一部は公費負担

雨水公費・污水私費のイメージ図

雨水処理費	公費（繰入金）
分流式分経費等	公費（繰入金）
污水処理費	私費（使用料）

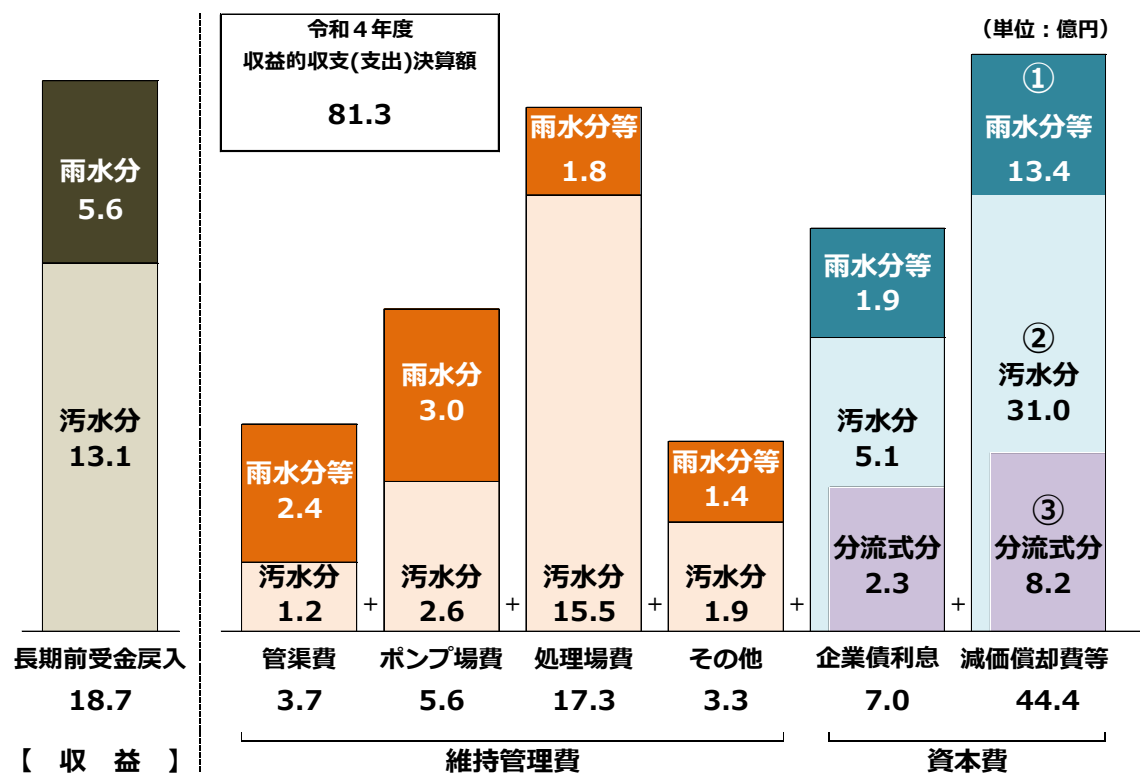
算出式

$$\text{経費回収率（\%）} = \frac{\text{使用料収入}}{\text{污水処理費}} \times 100$$

経費回収率の考え方

●経費回収率の経費区分（R4決算）

<経費区分>



※その他：業務費、水洗化促進費、水質検査費、総係費、その他営業外費用

「雨水公費・汚水私費」の原則

- ①「雨水公費」とは、雨水は自然現象に起因し、排除による受益が広く及ぶことから、雨水排除に要する経費については公費により負担。
- ②「汚水私費」とは、汚水は原因者や受益者が明らかなことから、私費（使用料）により負担。
- ③ただし、汚水処理に要する経費のうち、合流式下水道に比べ建設コストが割高になる分流式下水道に要する経費の一部などは、公的な便益も認められることから公費により負担。

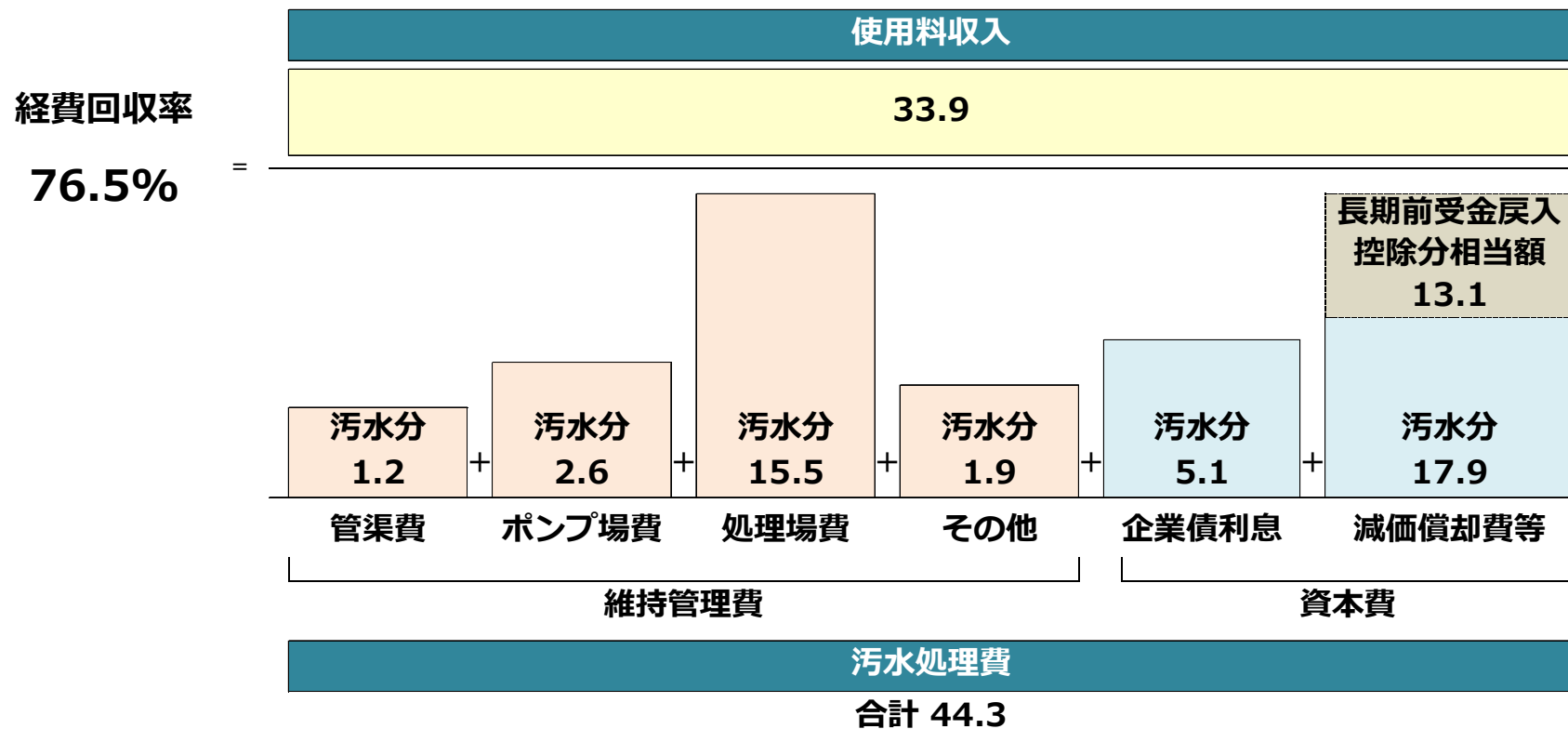
16

経費回収率の考え方

● 経費回収率の積算（R4決算）

<経費回収率>

(単位：億円)



17

経費回収率の考え方

●経費回収率の比較（R4決算）

全国平均・類似都市平均との比較

(単位：%)

区 分	R 4	R 3			比較		
団体名	いわき市 ①	いわき市 ②	全国 ③	類似都市 ④	①－②	①－③	①－④
経費回収率	76.5	78.9	86.9	84.3	▲ 2.4P	▲ 10.4P	▲ 7.8P

○令和3年度と比較すると、燃料費等の高騰に伴う汚水処理費の増加により低い水準となります。

※他自治体はR6.5に公表予定のためR3年度数値と比較

【類似都市の定義：①～③いずれの要件も該当する団体】

①処理区域内人口10万人以上

②有収水量密度2.5千 m^3 /ha以上5.0千 m^3 /ha未満

③供用開始後年数25年以上

今後の予定

- 次回の審議会では、次の点を考慮し、「投資・財政計画（案）」を提示する予定です。
- ①本日いただいた意見を集約、課題の抽出と整理
 - ②令和6年度以降の収支見通しを反映
 - ※直近の労務単価や物価高騰分等を反映、工事の進捗状況等を考慮し収益的収支と資本的収支に反映
 - ③令和6年度～10年度までの経費回収率の算定



- 使用料については、「投資・財政計画（案）」の純損益、資金保有額、経費回収率等の状況を考慮し、料金改定の必要性や妥当性などを検討します。
- 料金改定の必要性については、「下水道事業の持続性」、「市民負担の影響」の大きく2つの視点で検討します。